

有限会社岡元農場が 日本農業賞大賞を受賞

3月18日、有限会社岡元農場代表取締役の岡元豊さんが、第51回日本農業賞大賞の受賞の喜びを井出市長に報告されました。

日本農業賞は、意欲的に経営や技術の改革に取り組み、地域社会の発展に貢献する農業者を表彰するものです。岡元さんは、市の伝統野菜である加賀丸いもの普及や農業における

最先端技術の導入、女性の活躍推進、長年にわたる食育活動などが

高く評価され、大賞に選ばれました。

岡元さんは「これまでの取り組みに花が咲いた。今後は若手農業者のサポートにも力を入れていきたい」と意気込みを語っていました。



左から JA 根上吉岡康廣代表理事組合長、岡元農場岡元豊代表取締役、井出市長、JA 根上角越茂樹専務理事



「能美市の農業の牽引役（TOW）」として活躍する米農家3名（岡元豊さん含む）を市ホームページおよび動画で紹介しています。
※「牽引」は英語で「TOW」



教育委員に竹本里奈さんを任命

3月25日、新たに教育委員となった竹本里奈さん（牛島町）の任命式を市役所で行いました。

現役で子育てをしている竹本さんは「子ども

もの考え方や感じ方を大切に、母親目線で能美市の教育全体を見ていきたい」と話しました。

竹本さんの任期は、同日から4年間です。



辞令を受け取る竹本里奈委員長

寺井体育館がリニューアル

3月25日、寺井体育館の改修工事が完了し、利用を再開しました。

アリーナ床をクッション性が高い体育館用フロアシートに変えたことで、膝や腰への負担を軽減するとともに、さざくれによるけがを防止することで、利用者の安全性の向上を図りました。また外壁の劣化部分を補修し、アルミサッシを更新することで、建物の長寿命化を図るとともに外観

を刷新しました。

アリーナには空調設備を設けたことで、利用者がオールシーズン快適にスポーツを行えるようにしたほか、指定避難所として必要な環境を整え、災害に対応できるように備えました。

改修工事費、設計・監理費を含めた総事業費は2億389万3千円で、独立行政法人日本スポーツ振興センターから助成金が交付されます。



リニューアルした寺井体育館アリーナ



避難所

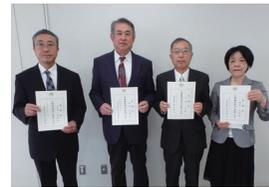
退任の人権擁護委員に感謝状・表彰状を贈呈



吉田猛志さん

荒木祐子さん

長きにわたり人権擁護委員として、地域の人権擁護活動に多大な貢献をされてきた2名が3月31日をもって退任されました。在任中の功績に対し、法務大臣から感謝状、石川県人権擁護委員連合会会長から表彰状が贈呈されました。4月12日、市役所で感謝状、表彰状の贈呈式を行いました。また14日、法務局小松支局で今年度から人権擁護委員になられる5名(3名は再任)の委嘱状の伝達式が行われました。



左から玄田さん、朝倉さん、元山さん、本多さん、村本さんは都合により、別日に委嘱状が伝達されました

◆感謝状(法務大臣) 荒木祐子 ◆表彰状(石川県人権擁護委員連合会会長) 吉田猛志

◆委嘱状 元山洋(再任) 村本淳子(再任) 朝倉裕樹(再任) 本多千種(新任) 玄田秀昭(新任)

※敬称略

功績をたたえ 故 西田フジ子さんが瑞宝双光章を受章

教育の振興と発展に尽力された功績をたたえ、西田フジ子さん(大成町)に死亡叙勲が授与されました。西田さんは公立小学校の教員や福岡小学校長など40年以上の長きにわたり学校教育の振興・発展に尽くされました。

市内企業18社に助成金を交付

3月24日、産業振興奨励助成金、企業立地促進助成金、宿泊施設立地促進助成金の交付式を市役所で行い、井出市長が交付対象の各企業の代表者に交付決定通知書を手渡しました。産業振興奨励助成金は、市内で工場などの新設・増設や機械設備に一定額以上の投資を行った企業に助成するものです。企業立地促進助成金は、市の産業用地などを取得し、工場などの新設・増設を行った企業に助成するものです。宿泊施設立地促進助成金は、市の賑わい創出および都市機能の充実を図るため、新たに宿泊施設を運営する事業者に対して交付するものです。交付式では、自社の現状や今後の展望、助成金などの活用方法などをご報告いただきました。交付額は合計4億9292万円となっています。



産業振興奨励助成(4社)

- アイ・ミルック北陸株式会社(吉光町)
クラスター株式会社(粟生町)
小松シャリング株式会社(下清水町)
株式会社ヨネモリ(灯台笹町)

企業立地促進助成(13社)

- 株式会社アイ・オー・データ機器(吉原釜屋町)
NGKセラミックデバイス株式会社(能美)
株式会社金沢村田製作所(赤井町)
株式会社川上鉄筋工業(山口町)
株式会社JOLED(岩内町)
株式会社中東(岩内町)
株式会社東振精機(寺井町)
株式会社長登屋(山口町)
日本ガイシ株式会社(能美)
日本通運株式会社(能美)
株式会社日本パーツセンター(粟生町)
日野トレーディング株式会社(赤井町)
米田ニット有限公司(山口町)

宿泊施設立地促進助成(1社)

- 株式会社スーパーホテル(吉原釜屋町)

辰口分団の消防ポンプ自動車を更新

市消防団辰口分団配備の消防ポンプ自動車は経年劣化が進んでいたため、車両を更新しました。新たな消防ポンプ自動車は、真空ポンプの排気量が従来よりも大きいものに変わり、防火水槽や自然水利用から水を吸い上げるスピードが速くなり、火災現場などで従来よりも早く放水できるようになりました。今回、防衛省の補助や緊急防災・減災事業債を活用し、車両を更新しました。



更新した消防ポンプ自動車

寺井消防署に救急車を配備

最新の資機材とあらゆる感染症対策に配慮した高規格救急自動車を寺井消防署に新しく配備しました。この車両は、救急隊員の負担軽減や近年増加している女性消防士の活躍推進にも考慮し、県内では初となる電動ストレッチャーを導入しました。ボタン操作のみでストレッチャーの上げ下げが可能で振動が少ないため、傷病者への負担も軽減できます。今回、全国の災害に派遣する緊急消防援助隊に登録し、緊急防災・減災事業債を活用し、車両を配備しました。



電動ストレッチャーを導入した救急車

市内41町会・町内会と 消防活動支援協定を締結

3月21日、能美市消防活動支援協定調印式を辰口福祉会館で行い、市内41町会・町内会と消防活動支援協定を締結しました。全国的に消防団員が減少している中、令和元年に機能別消防団、令和2年には女性分団を発足させ、消防力の強化に努めてきました。さらなる強化・充実のため、市内の41町会・町内会に組織される40団、593名の自衛消防団と市消防団および市消防本部が連携し、火災から市民を守る新たな体制を4月からスタートしました。井出市長は「行政と民間がワンチームになって市民の安全安心、生命、財産を守りたい」と力強く述べました。



能美市消防活動支援協定書を取り交わしました



能美市赤十字奉仕団チーム20

3月12日、ウクライナ人道危機に対し、能美市赤十字奉仕団チーム20が、アルビス寺井店前で募金活動を行いました。
18日、集まった救援金11万4018円が西出紀代美副委員長、寺門静江副委員長から日本赤十字社能美市地区長である井出市長に手渡されました。



募金する子どもたち

認定NPO法人えんがわ

ウクライナ人道危機に対し、認定NPO法人えんがわが「ふれあい市」で募金活動を行いました。
4月15日、集まった救援金4万4690円が荒田稔理事、金澤清之理事から日本赤十字社能美市地区長である井出市長に手渡されました。



金澤清之理事（左）と荒田稔理事

ウクライナ人道危機救援金 集まる善意の心 日本赤十字社を通して、ウクライナへ届けられます

能美市婦人団体協議会



4月15日、ウクライナ人道危機に対し、能美市婦人団体協議会が集めた救援金10万円が、石田晴美前会長から日本赤十字社能美市地区長である井出市長に手渡されました。



石田晴美前会長（左）と井出市長

はくさん信用金庫からフードドライブ品を受納

はくさん信用金庫のフードドライブの取り組みで、レトルト食品や乾麺、缶詰、ペットボトル飲料、菓子などが集まりました。
3月25日、玉井重治副理事長、竹本博之常勤理事、篠原宏和辰口支店長が市役所を訪れ、玉井副理事長から「必要とする方に役立ててほしい」と井出市長に集まった品が手渡されました。頂いた品は生活保護世帯や困窮世帯、ひとり親家庭、こども食堂などで活用します。



玉井重治副理事長（左）と井出市長

健康クラブ開講式

4月6日から9日にかけて、寺井末広健康クラブ、根上はまなす健康クラブ、辰口健康クラブ、ススマイルの市内3地区の健康クラブの開講式が各地区で行われ、多くの会員が参加しました。
式ではそれぞれのクラブの会長からクラブ員に向けて、1年間の抱負が力強く述べられ、参加者は早速、体操やリズムダンスで元気に汗を流し、親睦を深めました。



リズムダンスを楽しむ参加者たち

3地区の健康クラブはそれぞれ年間36回開かれ、クラブ参加希望者（おおむね55歳以上）を随時受付しています
問い合わせ スポーツ振興課 ☎58-2273 ☎55-8555

明治安田生命とSDGs支援機構がSDGs学習教材を寄贈

明治安田生命保険相互会社とSDGs支援機構から学習教材「小学生からのSDGs」の書籍と、動画「SDGs社内浸透アニメット」のデータを寄贈いただきました。
3月22日、同社金沢総合支社武隈正樹支社長らが市役所を訪れ、井出市長に目録が手渡されました。
武隈支社長は「小学校のSDGsの教育のために役立ててほしい」と話し、井出市長は「SDGsの気運を高めるために大切に使用させていただきます」と御礼を述べました。頂いた書籍は市内小学校に配布します。



学習教材「小学生からのSDGs」



学習教材の動画はこちらから

小松マテール株式会社からマスク4万4100枚を寄贈

小松マテール株式会社から自社製のマスクとマスクインナーを4万4100セット寄贈していただきました。
4月12日、同社佐々木久衛代表取締役社長らが市役所を訪れ、井出市長から感謝状が手渡されました。
井出市長は「新型コロナウイルス感染拡大防止のために有効活用させていただきます」と御礼を述べました。



佐々木久衛代表取締役社長（左）と井出市長

DX推進の足がかりにIoT・AI推進事業報告会を開催

3月29日、北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）との「IoT・AI推進事業」の報告会を、オンラインで行いました。この事業は、地域課題の解決を目的にJAIST学生が研究を行い、IoT・AIを活用した解決策の提案を行うものです。
今回、株式会社東振精機、株式会社徳野製作所および株式会社本螺子製作所に協力いただき、各社が抱える課題の解決を目指し研究を行った学生5名が、市と企業に向け成果報告を行いました。学生は市内企業の取り組みや課題を知る機会となり、企業は作業の改善案やDX推進のアイデアを受け取る機会となりました。井出市長は「この事業を通して、JAIST学生が市内企業へ就職するきっかけとなることを願っています」と述べました。



オンライン報告会の様子

大学連携で加賀丸いもの魅力再発見

3月30日、金沢学院大学の飯田栄治教授と学生2名が市役所を訪れ、研究成果を井出市長に報告しました。
学生たちは中華、イタリア料理店の協力による調理動画の制作やレシピ考察、成分分析の結果などに



活動報告を行う学生たちと飯田栄治教授

福島こども園竣工

自然豊かで屋外遊びを推進した新園舎



4月15日、幼保連携型認定こども園「福島こども園」の竣工式が行われ、関係者約30名で新たな園舎の完成をお祝いしました。

福島こども園は、令和3年4月から、能美市初の民間の認定こども園としてオープンし、旧園舎で運営されてきました。

完成した新園舎は、木造平屋建てで、広い園庭と中



福島こども園の新園舎

庭に配したビオトープ、広いピロティなど、屋外遊びを大切にしたい保育の実現に向けた造りとなっています。

黒田圭吾園長は「この園舎でしかできない保育を行い、いろいろな人の交流拠点にもしていきたい」と述べました。

園の定員は75名で、5月2日から新園舎での保育が始まります。



自然豊かなビオトープ

「おおきくなあれ」

園児たちが加賀丸いも植え付け体験

4月13日、福岡保育園の年長組（きく組）28人が、中庄町の畑で加賀丸いもの植え付け作業を体験しました。

この体験は中庄町丸いも倶楽会によって毎年行われているもので、園児たちは倶楽会の南修二さんから説明を受け、加賀丸いもの種芋を丁寧に植えました。種芋に土をかぶせ終わった後には「おおきくなあれ、まるくなあれ、おいしくなあれ」と加賀丸いもの成長を願いました。

植えた加賀丸いもは秋に園児たちが収穫する予定です。



加賀丸いもの植え付け体験をする園児たち

卒園児に九谷焼の記念品を贈呈

3月に市内の保育園を卒園した406名の園児たちに、石川県陶磁器商工業協同組合（九谷陶芸村内）から記念品として九谷焼の湯飲みが贈られました。この事業は平成15年から続いています。

3月22日、東浩一理事長と岩田克久副理事長が市役所を訪れ、井出市長に目録が手渡されました。湯飲みには、いしかわ動物園で飼育されているトキが描かれています。



卒園児に贈呈された九谷焼の湯飲み